

# 医療的ケア児の地域生活を支える多職種連携の評価尺度の開発

渡邊 理恵 ●久留米大学 医学部 看護学科 講師



モデル人形活用の研修会

## 1. 背景と目的

2020年の医療的ケア児は約2万人超と推計されている。中でも0～19歳の人工呼吸器を装着しているケア児は約5400人（厚生労働省2022年）と言われ、医療の進歩により急増している。このような状況において、地域で医療的ケア児の生活と育ちを支える多職種連携は重要である。現在、医療的ケア児に関わっている様々な職種の連携は、退院時などの移行期は密に行われている。

しかし、地域移行後は、各職種の役割を相互に共有することが難しく、各職種の専門性の発揮や支援の継続を困難にしている現状がある。先行研究では、看護師が指導を行うことで介護士・保育士・学校教員の不安が増強したり、医療的管理を優先することで成長発達を促す保育・教育の専門性の発揮がされにくいことなどが明らかとなっている。これは地域で生活する医療的ケア児を支援している医療・福祉・教育系の、多様な専門性を持つ多職種の連携の実態や促進要因、阻害要因などが明らかになっておらず、その客観的評価による具体的方策が検討できない現状によるものと考えられる。

これまで在宅の高齢者を対象とした多職種連携評価尺度の開発はされているが、医療的ケア児の地域支援に関する多職種連携

評価尺度は見当たらない。そこで本研究は、医療的ケア児に関わる職種の多職種連携に向けた活動を評価する尺度を開発することを目的とする。

## 2. 取り組みの方法

### 1) アンケート調査

(1) 調査項目：データベースPubMedにてKey-Word interprofesional+Collaboration Community+Networkを用いて検索した20編のSR（システマティックレビュー）の分析により得た、多職種連携活動と成果に関する質問55項目（7件法）と基本情報。

(2) 対象：医療的ケア児の支援を行っている全国18都道府県の各事業所を無作為に抽出した相談支援専門・訪問看護師・訪問介護士・特別支援学校の養護教諭・学校看護師。

### (3) 分析方法

①信頼性の検証：探索的因子分析による因子妥当性の検証（Cronbachの $\alpha$ 係数の算出）。

②妥当性の検証：構成概念妥当性と基準関連妥当性の検証を行う。

### 2) 評価尺度の開発

分析結果に基づき「医療的ケア児の地域支援に関する多職種連携評価尺度」を作成する。

## 3. 期待される成果

多職種連携の評価尺度を開発することで、連携の現状と課題について客観的評価が可能となり、実際の連携場面で評価尺度を活用することで、多職種連携のあり方について改善すべき点や継続する点等が明らかとなる。その結果、具体的連携の方向性が明らかとなり、多職種連携の質の改善の一助となり、支援者間の連携の促進が期待される。